

「島野浦の子どもたち」

延岡市立島野浦学園 養護教諭 河野 真裕

延岡市立島野浦学園は、全校児童生徒18名（1年生3名、3年生1名、4年生2名、5年生2名、6年生4名、7年生2名、9年生4名）のへき地校です。県北の離島として知られる島野浦は、ここにしかない自然や人と触れあいながら、のびのび成長できる環境が児童生徒をとてもたくましく、心豊かに育ててくれるところです。そんな環境の中で育った児童生徒は、島野浦の人たちにとってアイドル的存在です。

児童生徒の登下校や職員の出退勤時には、「おはよう、行ってらっしゃい」「こんにちは、おかえり、お疲れさま」とあいさつを交わすことが日常的で、地域の方に見守られながら毎日安心して過ごすことができています。

登校すると、後期課程の生徒は旗揚げをし、前期課程の児童は育てている植物の水やりや成長を観察しています。また、前期課程と後期課程がペアになって朝・昼の放送を行うなど、義務教育学校ならではの助け合いや学び合い、愛らしさに職員も癒されています。また、給食は、地域に住む調理員の皆さんのが安心安全な給食を作ってくださり、多目的室で全児童生徒と職員と一緒に食べています。児童生徒や職員の誕生日には、全員で「ハッピーバースデイ」を歌ってプレゼントしています。お祝いしてもらうことを照れくさそうにしているところもありますが、一人一人の存在を大切に、自分を大切に思える時間が学校の中にもあることを知ってもらえる良い機会となっています。

児童生徒たちの人や地域を大切にしようとする姿は魅力的で、いつもパワーをもらっています。その一つとして、運動会では本校だけでなく保育園児や地域の方にも参加を呼びかけ、交流を深める競技を計画しています。また、学習発表会では地域の方にも作品展示を呼びかけ、児童生徒が表現や発表をする姿を地域の方にも見ていただいています。島野浦の人たちにパワーを与え、地域を明るく元気にできる力を児童生徒たちはもっていると感じています。

さらに、島の秋祭り「神社大祭」では、後期課程の生徒による演舞「獅子駒」や運動会で披露したダンスを発表するなど、自分たちが貢献できる方法で地域の活性化も図っています。

自分たちが育つ島野浦を大切に思い、これからも守っていくためには、人と助け合いながら、さまざまなものに挑戦できる力が必要です。そのためにも、自他の心や体を大切にできる力や生涯を通して健康な生活を送ることができる力を卒業するまでに身につけてほしいと思っています。

本校の健康課題は、生活習慣の乱れやさまざまな場面でSOSが出せていないことです。背景として、長時間のメディア使用や運動時間が少ない、自分の考えや気持ちを人に伝えることが苦手なことなどがあげられます。日々、児童生徒と接する中で変化を見逃さず、学校と家庭が連携して指導できるように、これからも養護教諭として児童生徒に寄り添いながら、課題解決に向けて行動できる児童生徒の育成に励み、一人一人の個性や良さを伸ばすことができるような環境づくりに努めていきたいと思います。